

本日のテーマ

1. 新NISAの全体像と改善ポイント
2. 新NISA、よくある質問と間違い
3. 実際の運用プランと注意点

1 新NISAの全体像と改善ポイント

1-1 資産運用はなぜ必要なのか

- 30数年前、6%の定期預金があった頃にはお金は**12年で倍**になった。今の0.2%では**360年**かかる。預金で資産は作れない。
- 足元ではインフレが急速に進んでいる。毎年物価が3%上がる場合、今の100万円の預金は3年後には91.5万円、10年後は74.4万円、**20年後は55.4万円の価値**しかなくなる。
- 平均寿命が伸び、年金しか収入のない老後が長くなっている。少子高齢化で年金財政の悪化も懸念される。
- つまり「**株や投資信託などのリスク商品**を使い、せめて物価上昇率を上回るような運用を自分で始めないと、今後は普通の暮らしも難しくなっていく」ということ。

1-2 NISA（少額投資非課税制度）の歴史

- 2014年にNISAが誕生（後の**一般NISA**、期間限定）。
- 16年に非課税枠が年100万円→120万円に拡大し、**ジュニアNISA**が追加される（期間限定）。
- 18年に**つみたてNISA**が追加される（期間限定）。

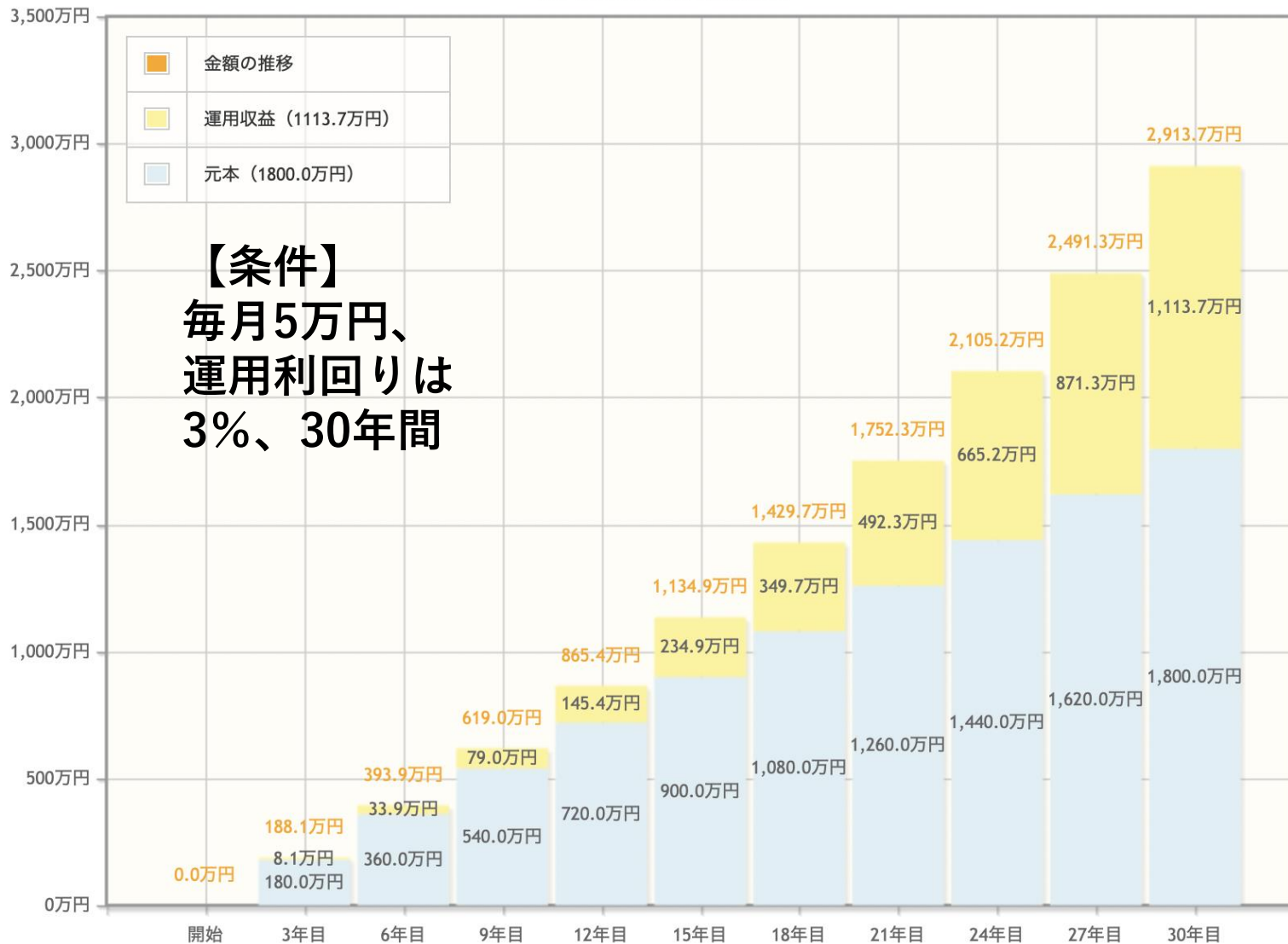
→ 24年から、これらを統合した「新しいNISA」ができるとされていたが、複雑で説明しにくい商品設計だった…
- 22年末に出た税制改正大綱で、24年からのNISA制度の**大幅な拡充と恒久化**が示された。以前の**新NISA案**は廃止に。

1-3 NISAのメリット＝投資の利益が非課税に

- 投資でどれだけ利益を上げてても、通常の証券口座（課税口座）のように**約20%の課税がされない**。
- 100万円で買った株が、11倍の1100万円に値上がりしたとする。利益は1000万円だが、課税口座だと20.315%取られて手取りは796万8500円。NISA口座なら1000万円が全額得られる。
- 値上がり益だけでなく、株を持っている間の**配当**、投信やETFを持っている間の**分配金**も全て非課税になる。
- 日本に住む18歳以上なら誰でも使え、いつでも自由に解約可能。同じ商品でもNISA口座で買う方が手数料が安くなることもある。

1-4 非課税×複利の凄さ（雪だるま効果）

積立金額と運用成果



総額
2913.7万円 4%→3470万円
5%→4161万円

運用収益
1113.7万円

元本
1800万円

金融庁サイトの資産運用シミュレーション

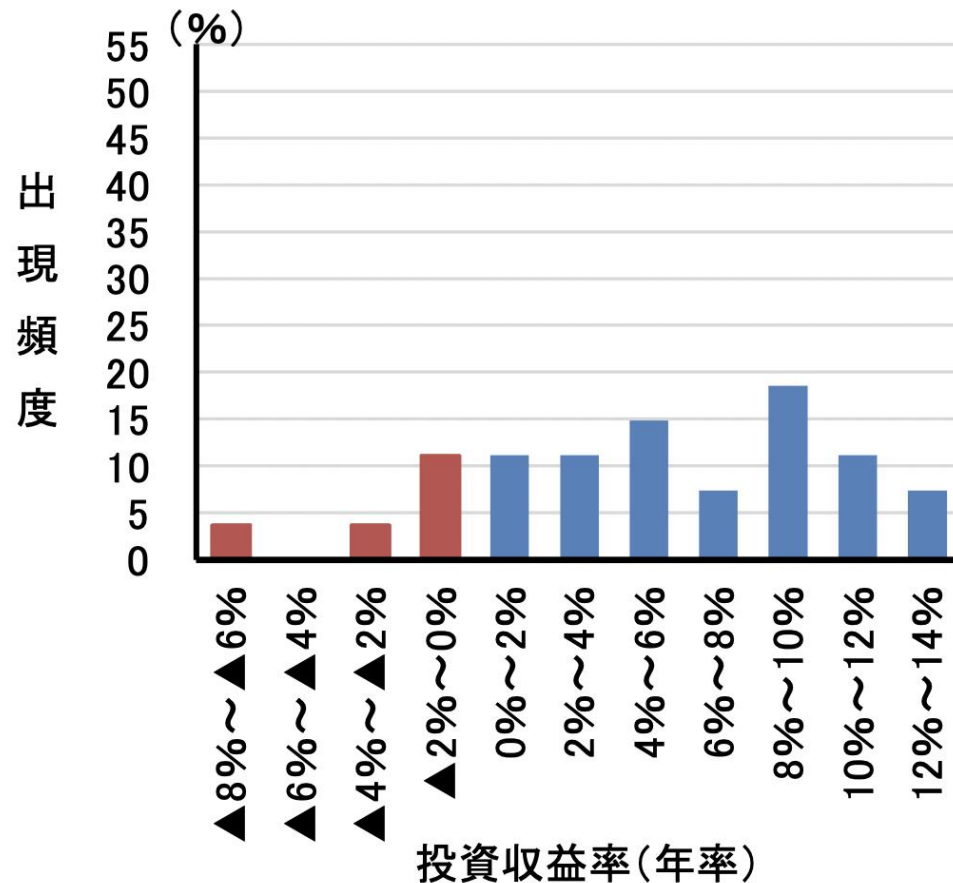
1-5 現行NISAは3種類ある

	一般NISA	つみたてNISA	ジュニアNISA
非課税運用期間	5年	20年	5年
非課税投資枠	年 120万円 (最大600万円)	年 40万円 (最大800万円)	年80万円 (最大400万円)
買える商品	ほぼ全ての個別株・投資 信託・REIT・ETFなど	264本の投信とETF8本のみ (12月15日現在)	一般NISAと同じ
目的・払い出し	自由・制限なし		自由（子供や孫の進学など将来のために使う資金）・原則18歳まで引き出せない
備考	2つの枠の選択制。23年以降は18歳から使用可		23年末で終了

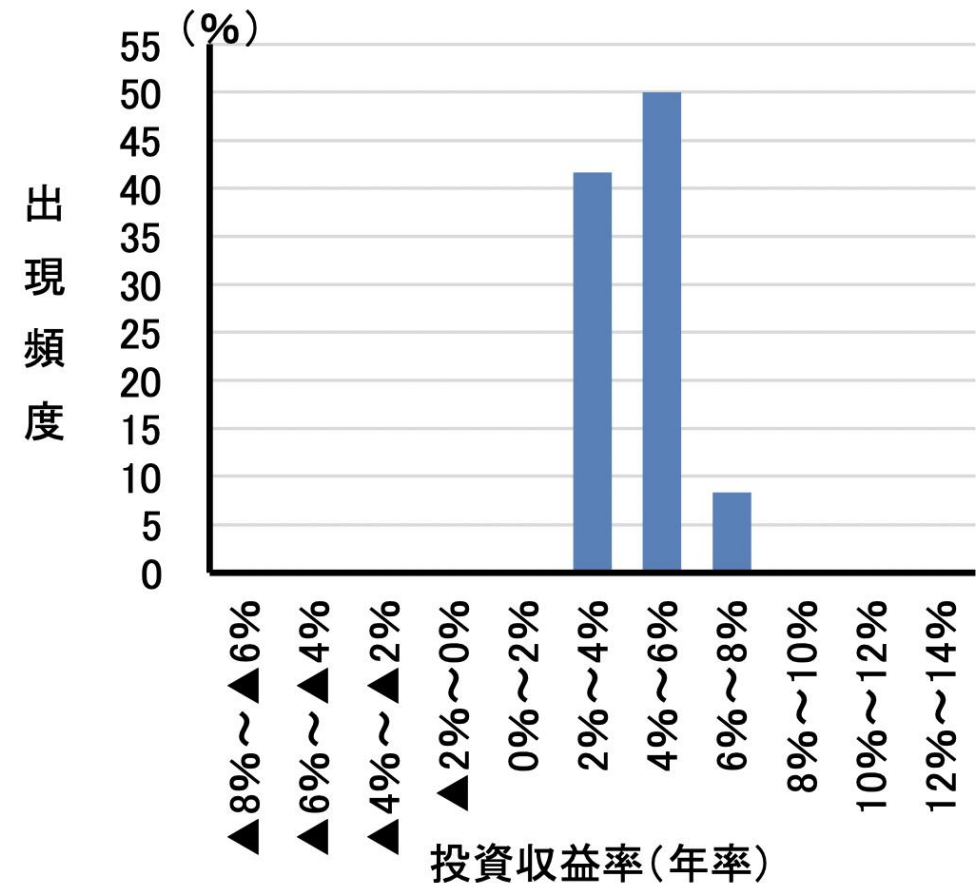
1-6 つみたてNISAはなぜ20年なのか

保有期間が5年だと、+14%の時もあるが▲8%で終わる時もある。保有期間が20年になると、収益率は年率+2~8%に収斂する。（金融庁「平成27事務年度 金融レポート」）

＜保有期間5年＞



＜保有期間 20 年＞



1-7 新NISAは2種類にシンプル化

	成長投資枠	併用可	つみたて投資枠
非課税運用期間	無期限化		
非課税投資枠	年240万円		年120万円
非課税保有限度額（総額）	生涯投資枠が1800万円（うち成長投資枠は1200万円まで）		
買える商品	個別株・投資信託（約2000本に限定）・REIT・ETFなど		現行のつみたてNISAと同じ
備考	2つの枠の併用が可能。18歳から投資可能		

1-8 成長投資枠で買えるものの条件

- 個別株・投信・REIT・ETFなどが買える。
- 個別株では「整理・監理銘柄」が除外。
- 投信では①信託期間が20年未満、②毎月分配型、③ヘッジ以外の目的でデリバティブを使うもの……が除外。

一般NISA

- ▶ ほぼ全ての個別株・投信・REIT・ETFなど
- ▶ 投信は約**6000**本 (REITやETFを含む)

新NISAの成長投資枠

- ▶ 個別株や投信・REIT・ETF (約**2000**本に限定) など
- ▶ 株式では「整理・監理銘柄」を除外
- ▶ 投信では「信託期間が20年未満」「毎月分配型」「ヘッジ以外の目的でデリバティブを使う」ものを除外

→ 投信は一般NISAに比べ3分の1の本数に

1-9 新NISA、5つの大きな改善ポイント

- ① NISAの制度自体が**恒久化**。
- ② 今の一般NISAが「成長投資枠」に、つみたてNISAが「つみたて投資枠」になり、**2つが併用可能**に。
- ③ 非課税運用期間が5年・20年から**無期限**に。
- ④ 非課税枠は、成長投資枠が年240万円（2倍）、つみたて投資枠が120万円（3倍）と大きく拡大。**生涯では1800万円**まで非課税で運用可能。
- ⑤ 買った商品を売ると**非課税枠が「翌年」に回復**する。管理は買った時の価格で行う（時価でなく簿価）。

1-10 何ができるようになったか

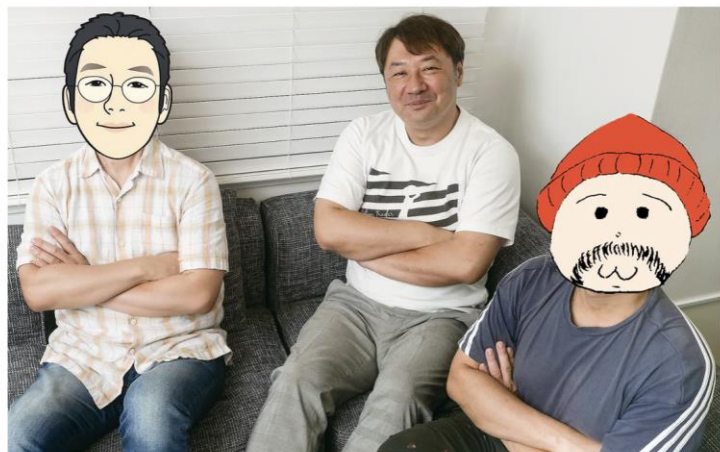
- 制度が恒久化し、非課税運用期間も無期限化されたため、**株や投信を値上がりするまで半永久的に**持てる。
- ロールオーバーのような面倒な手続きなしで、配当や分配金をずっと非課税で受け取れる。
- 商品を売れば非課税枠が復活するので、株や投信が値上がりしている**有利なタイミングで売却**できる。
- 2つの枠の併用で「毎月、投信を積み立てながら、機動的に株やREIT、ETFを買う」ことが可能に。
- 「**コア・サテライト戦略**」（8割：2割）がNISA内で完結する。

新NISAで「家族で億万長者に」 すご腕投資家座談会

新NISA活用完全ガイド (1)

日経マネー特集 + フォローする

2023年9月19日 5:00



左からDAIBOUCHOU（ハンドルネーム）さん、坂本慎太郎さん、御免注（ハンドルネーム）さん（写真=加藤康）

2024年1月から新しい少額投資非課税制度（NISA）が始まる。新NISAは生涯投資枠の拡大など、現行のNISAとは設計が大きく変わるため、その活用には深い理解が欠かせない。この連載では新NISAをうまく活用するため投資戦略などを紹介する。初回はすご腕の億万投資家3人に、新NISAの評価やお勧めの投資方法についてじっくり語ってもらった。

——最初に皆さんが手掛けている投資法を教えてください。

DAIBOUCHOUさん（以下、D） 23年間、専業で投資家をしています。バリュー（割安）株投資が主体で、約300銘柄に分散投資しています。

坂本さん（同、坂） 投資歴は25年で、証券会社や生命保険会社で金融商品の運用を12年ほどやって、今は個人で株式投資以外に不動産投資などもやっています。基本は超長期投資でいろんな株に分散して投資しています。

若者に大きなメリット

坂 長く運用できる強みがある若者にもちゃんと定着しそうですね。YouTubeやTikTokなどで活躍している節約系やミニマリストのインフルエンサーを見ると、意外とつみたてNISAだけはやっていいますと言う人が結構います。そういった人たちが若者を啓蒙してくれそうです。

D つみたてNISAを使っている若い人は既にかかなりいます。新NISAでは成長投資枠も使って1800万円全部、投資信託の積み立てという人も出てきそうです。

御 原則60歳以上にならないと引き出せないiDeCoと異なり、NISAはいざという時には現金化できます。そういった意味でもあまり預貯金がない若者にお勧めと言えそうです。

——皆さん高評価ですね。逆に制度をこうしてほしかったという点がありますか。

御 贈与の特例とかは作ってほしかったです。新NISAは18歳から口座を開設ができますが、親が子どものNISA枠を年間の投資上限枠いっぱい埋めようすると贈与税がかかってしまう。どうしようかと迷っています。

D 確かにNISAに使う目的であれば、200万円までは贈与に当たらないとかだと、もっと使い勝手が良くなりますよね。



親から子、祖父母から孫に年100万円贈与すると、
資産のシャンパンタワーが作れます。

DAIBOUCHOUさん

ただ、新NISAの生涯投資枠は、両親と18歳以上の子どもが2人いると一家で7200万円にもなります。もし自分も運用しながら子どもに毎年、100万円ずつ贈与して、もしくは祖父母から孫に同額ぐらい贈与してNISA口座で運用させていくと、それだけでシャンパンタワーのように資産を移転させていくことができます。今の制度でも長い目で見ると、新NISAを活用するだけで「一族富裕層計画」のようなものが実現できるのではないのでしょうか。

2 新NISA、よくある質問と間違い

2-1 現行NISAを利用中。新NISAの利用に手続きは必要か？

- 金融機関を変えないなら**手続きは不要**で、自動的に今のNISA口座が「成長投資枠とつみたて投資枠を持つ新NISAの口座」に。
- 投信を積み立てている場合は、今の積立額や積み立てタイミング、銘柄が**そのまま引き継がれる**。今のつみたてNISAの設定はつみたて投資枠に、一般NISAの設定は成長投資枠に。
- 新NISAに合わせ設定変更も可能。積立額が3万3333円など半端だと枠を使いきれないので、キリのいい額に増額もあり。
- 非課税枠の拡大に合わせ、クレカと現金の併用が可能になったり、クレカでの投信購入上限が10万円に上がる会社も。

2-2 現行NISAで買った商品は新NISAに ロールオーバーできる？

- 現行NISAの非課税枠は、新NISAの1800万円とは**完全に別扱い**。
- 現行NISAで運用している商品は、5年・20年の非課税期間が終わっても新NISAの口座に**ロールオーバーで移すことはできない**。
24年以降、現行NISAの口座で商品を新たに買い付けることもできない。非課税運用は継続されており、売却は自由なので、非課税期間が終わるまでに**相場を見て売る**ことになる。
- ジュニアNISAで23年以降に非課税期間が終わるものは、18歳まで非課税で保有できる。18歳までの売却制限があったが、制度の終了に伴って24年以降は年齢に関係なく売却可能に。

2-3 成長投資枠で株を買いたい。金融機関はどう選べばいい？

- NISA口座は証券会社のほか、投信運用会社、銀行（大手銀、地銀、信託銀）、信金、信組、JA、労金、一部の保険会社で開設できる。
- しかし**銀行では株は買えない**ので、株やREIT、ETFに投資したいなら証券会社を選ぶこと。
- 銘柄選びや投資タイミングを相談したいなら店舗のある対面証券、自分で全て決めたいならネット証券を選ぶ。一般に**ネット証券の方が手数料が安く、品揃えも豊富**。ネット証券には投資でポイントが貯まる会社も多い。

2-4 成長投資枠だけ使うと上限は1200万円。 なら、つみたて投資枠の上限は600万円？

- 新NISAの生涯投資枠は1800万円だが、成長投資枠で株やREITだけを買う場合は、**上限が1200万円までに制限**される。
- ここで引き算して「つみたて投資枠の上限は600万円」と思い込む人がいるが、よくある間違い。
- つみたて投資枠で対象の投信を1000万円分積み立てることもできるし、**つみたて投資枠だけで1800万円**の枠を全て埋めることもできる。逆に、**成長投資枠で投信の積み立て**もできる。
- つまり1800万円の枠を余さず使い切りたい場合には、投信を活用することが必須になる。

新NISAで買う投資信託 指数連動型、「成長枠」でも How To NISA (2)

NISA [+ フォローする](#)

2023年7月28日 5:00 [会員限定記事]

保存



NISAを利用する際も「長期・分散・低コスト」を心がけることが大切

2024年から大幅拡充される少額投資非課税制度（NISA）。同じ年に「つみたて投資枠」120万円、「成長投資枠」240万円の計360万円まで活用可能になる。それぞれの枠でどんな商品に投資すればいいのだろうか。

対象投信絞り込み

現在のつみたてNISAを引き継ぐつみたて枠は、金融庁が長期投資に適すると認めた投資信託が対象で低コストのインデックス（指数連動）型投信が主体。つみたてNISAは7月12日時点で245本だ。日本の投信は全体で6000本弱なので、約4%に厳選されている。

成長枠は現在の一般NISAを基本的に引き継ぎ、運用担当者が銘柄やタイミングを選んで市場平均を上回ることを目指すアクティブ（積極運用）型も幅広く選べるほか個別株などにも投資できる。

2024年からの新NISAで投資できる主な商品

	インデックス型 投信	アクティブ型 投信	個別 株式	REIT	ETF
つみたて 投資枠	○ 信託報酬などに制限	○ 信託報酬、資金流入期間、 純資産残高で選別	×	×	○
成長 投資枠	○ 信託報酬の制限なし	○ 信託報酬の制限なし	○	○	○

つみたて投資枠の投信は成長投資枠で使用可能

(注)新NISAで投資できる投信は毎月分配型以外、信託期間20年以上、ヘッジ目的以外の金融派生商品を使わないファンド。※バランス型投信での組み入れは可

成長枠の対象となる投信は投資信託協会が順次公表中で、現在は約1300本。株式型が6割、債券・バランス型が3割、不動産投資信託（REIT）などその他が1割。新NISAが始まる時点で約2000本になる見込みだ。

成長枠、目立つ高コスト

投資の重要な原則は「長期・分散・低コスト」だ。そこで投資家が投信の保有中に払うコストである信託報酬についてQUICK資産運用研究所のデータを基に、つみたて枠と成長枠の投信を比べてみた。世界株のインデックス型ではつみたて枠が平均0.25%に対し、成長枠は0.59%と約2.4倍だ。株式のアクティブ型全体では、つみたて枠は1%だが成長枠は1.6%と高い。

新NISAで投資できる投信の平均信託報酬

	インデックス型			アクティブ型		
	国内株	世界株	株式全体	国内株	世界株	株式全体
つみたて投資枠	年0.26%	0.25	0.27	1.02	0.99	1.00
成長投資枠	0.54	0.59	0.57	1.51	1.66	1.63

(注)QUICK資産運用研究所のデータを基に計算。成長投資枠はつみたて投資枠と共通の投信を除く

2-5 iDeCo（個人型確定拠出年金）とNISA では、どちらを先に使うべきか？

- NISAは投資で利益が出ないと旨味がないが、iDeCoは加入して掛け金を払った瞬間から**所得控除**で税金が確実に安くなる。運用で利益が出なくてもトータルでは有利なので「**まずはiDeCoから使う**」が定石。余裕があればNISAも併用したい。
- ただしiDeCoは65歳までしか入れないので、残り期間があまりない人や、65歳を超えた人はNISAを利用する。
- 会社にDCがあり毎月5万5000円出してくれている場合は、上限に達しているので個人でiDeCoには入れない。会社のDCでマッチング拠出をしている人も同じ。この場合は**NISA一択**になる。

2-6 新NISAで積立投資を始めた場合、途中でお金を払えなくなったらどうなる？

- NISAに限らず、投資信託で積み立てをしている場合には**中止**や**一時休止**が可能。中止は新規の買い付けを止めることで、一時休止はお金に余裕がない時などに、一時的に積み立てを止めること。
- 中止や一時休止をしても**非課税運用は続けられる**。積み立てた資産を売却する必要はなく、保険のように続けていないと権利がなくなることもない。
- お金に余裕がない時はこの他、**積立額の変更**で対処することも可能。いつでも、年に何回でも変更できる。

2-7 新NISAを使って子供の教育費を作ることは可能か？

- NISAは老後資金づくりが目的のiDeCoと違って**投資の目的が自由**なので、教育資金づくりや住宅資金づくりなど様々に利用可能。引き出しもいつでも自由にできる。
- ただ教育資金づくりは「**失敗できない投資**」になるため、なるべく成功確率の高い方法で行う必要がある。
- 一般に、**運用期間が15年～20年といった長期になれば**ほぼプラスの成績で終われるため、NISAでの投信積み立てを考えたもよさそう。逆に子供の進学が2～3年後など期間が短い場合は、個人向け国債や預金などを使う方が安全だと言える。

2-8 新NISAに「20代はこうする」など年代に応じた活用法はあるのか？

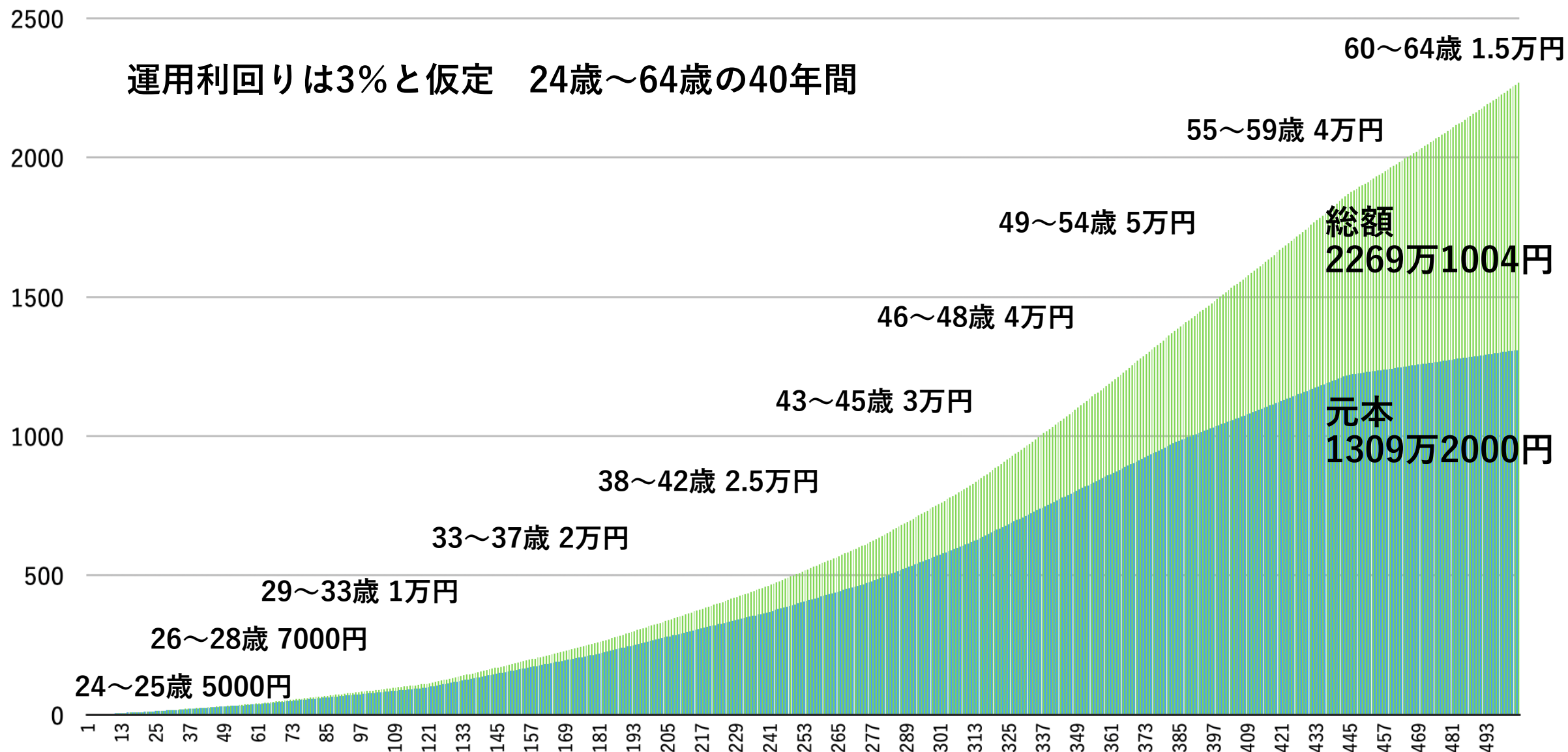
- よくある質問で、一般に「若い頃はリスクが取れるので株が多めの積極運用」「年を取ったら債券を多めにした安全重視の運用」…というのが答えになる。
- だが実は**投資と年齢はあまり関係ない**。他にどんな資産があるのか、家族構成は、投資経験は、などで決まる「その人の**リスク許容度**」の方が重要。
- 特に人生100年時代では、堅実な運用に傾きすぎるとリターンも得られなくなる。目安は「**夜寝られなくなるような額**を／掌に汗をかくような商品に／投資すべきではない」ということ。

3 実際の運用プランと注意点

3-1 新NISAの運用プラン（資金効率）

- 資金効率だけでいえば、**なるべく早く1800万円の枠を埋めた方が有利**。仮に5%で運用できるとして、手元に退職金などがある人は月30万円をNISAに移せば、5年後から全額を5%で運用できる。月5万円の積み立てだと30年後からになってしまう。
- つみたて枠だけだと月10万円が上限。だが**成長枠でもつみたて枠用の投信は買える**ので、例えば同じ投信を20万円+10万円と両方の枠で買えば、最大で月30万円まで資金移動できる。
- 若い人、働く人の場合は「つみたて投資枠を使いインデックス投信で積み立てる」のが王道。最初は月5000円からでもよく、**余裕ができたらどんどん増額**していくと増え方も加速する。

3-2 より現実的なシミュレーション



3-3 初心者はまずインデックス投信から

- 投資で失敗しないコツは**分散**。初心者はあまり悩まず「最初是世界株インデックス投信を、長期で積み立てる」と覚える。
- 投信は1本で多くの資産に分散投資できる。世界株インデックスなら世界各国の数千の個別株に投資したのと同じ効果が得られ（**銘柄分散、国際分散**）、期待リターンは債券型より大きい。
- インデックス投信は「信託報酬」が低いのも魅力で、しかも各社の競争により年々低下が続いている。
- さらに投信を毎月一定額で積み立てていけば**時間分散**になり、高値づかみを避けられる。一方、安い時に多く買えるので後で大きく増える可能性がある。これが「**ドルコスト平均法**」。

3-4 インデックス投信は世界株、米国株？

- ここ15年くらいはマグニフィセント・セブンの躍進もあり**米国株**に投資するのが最も高成績だった。コロナ後に増えた若い投資家も一斉にS&P500連動のインデックス投信を買った。
- ただ、**今良いものが次の時代も良いとは限らない**。米国のインフレは収まりつつあるものの、足元では景気後退の兆しも見え始めている。従って今後は、資産の全てを米国株に投じるようなやり方は避けた方が賢明か。
- やはり長期的にはインドなど**新興国の大きな成長**が取り込める世界株インデックス投信が勧めやすい。6割は米国株なので、今の米国の好調さを取り逃す恐れもない。

3-5 インデックス投信はどう選ぶか

- 投資信託の手数料には①購入時手数料、②運用管理費用（信託報酬）、③信託財産留保額の3つがある。
- つみたてNISAの対象投信は基本的に、**ノーロード**と言って購入時手数料がかからず、信託財産留保額もない。
- 従って同じ指数に連動する投信なら、**信託報酬**が低く、**純資産**が安定して増えているものを選ぶ。最近は総経費率も話題に。

	信託報酬	純資産総額
eMAXIS slim 全世界株式（オール・カントリー）／三菱UFJ AM	0.05775%	1兆7527億円
SBI・全世界株式インデックス・ファンド （愛称：雪だるま（全世界株式））／SBI AM	0.1102%	1533億円
楽天・全世界株式インデックス・ファンド （愛称：楽天・VT）／楽天投信	0.192%	3841億円

3-6 オルカンを基本に他の投信で味付け

- 全額が世界株インデックス投信（オルカン）一択でいいかどうかは考え次第。他の投信を組み合わせ、自分の考えに合うよう味付けすることもできる。
- オルカンに占める**日本株の割合は5.5%**。日本株の割合を上げたいなら日経平均株価連動型を足す。毎月10万円の場合はオルカン8万円、日経平均2万円など。日本株の比率が24.4%になる。

	信託報酬	純資産総額
たわらノーロード 日経225／アセットマネジメントOne	0.143%	1144億円
<購入・換金手数料なし> ニッセイ日経平均インデックスファンド ／ニッセイAM	0.143%	641億円
iFree 日経225インデックス／大和AM	0.154%	560億円

3-7 高配当株インデックスも面白い

- 高い配当を出し続けられる企業は**業績も堅調**で、「株主還元を重視する企業だ」と評価されて株価も上がりやすい傾向がある。新NISAでもやはり高配当株が買われそう。
- 米国には何十年にも渡って連続増配を続ける**配当貴族**という銘柄群があり、株価指数にもなっている。配当貴族指数は2000年以降で見るとS&P500の2倍以上に成長している。

	信託報酬	純資産総額
日経平均高配当利回り株ファンド／三菱UFJ AM	0.693%	447億円
iFreeNEXT 日経連続増配株指数（資産成長型）／大和AM	0.451%	1億円
野村インデックスファンド・米国株式配当貴族（愛称：Funds-i フォーカス 米国株式配当貴族）／野村AM	0.55%	571億円

3-8 次はアクティブ投信、ETF、インフラF

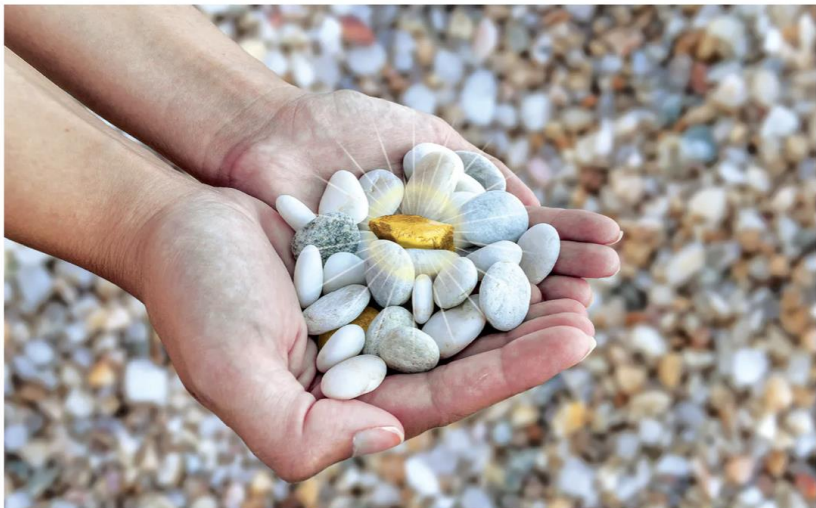
- アクティブ投信はコストは高めだが、**市場平均を遥かに超える成績を出すものもある**。ひふみ投信など直販系が人気。ただ日本ではインデックス型に勝っているアクティブ型は2割もなく、探しにくいのが難点。
- ETFはコストの低さが魅力。例えば「iシェアーズ・コア 日経225 ETF」（ブラックロック）は**信託報酬が0.0495%**。投資対象も様々な株価指数のほか業種別指数、債券、商品（原油、金）など幅広い。積み立てしにくいのが難点。
- インフラファンドはREITの一種で5銘柄あり、**分配金利回りの高さ**（5.77～7.03% ※12/15）と安定した値動きが魅力。

新NISA、攻めの投信 成長投資枠2000本リターンで選別

日経ヴェリタス [+フォローする](#)

2023年12月10日 4:00 [会員限定記事]

保存 [あ](#) [📄](#) [✉](#) [n](#) [✖](#) [f](#) [📌](#)



NIRKEI montage/Stock

[📊](#) 図表を保存

「対象の投資信託が多すぎてどれを選べばいいか迷ってしまう」。千葉県の小栗紬さん（29歳）は来年の新NISA（少額投資非課税制度）開始に合わせ、毎月3万円に設定している積み立て投資の金額を10万円に増やす計画だ。米S&P500種株価指数に連動するインデックス型投信に加えて別の投信も購入する予定だが、対象を決めきれていない。「長期運用に適した投信をしっかりと考えて選びたい」と話す。

新NISAでは「つみたて投資枠」と「成長投資枠」とでそれぞれ年120万円、240万円投資でき併用も可能になる。金額が増えるだけでなく非課税期間が恒久化され、生涯にわたる資産形成がしやすくなる。

成長投資枠対象投信の運用成績ランキング

日本株は中小型のリターンが好調

	ファンド名	運用会社(略称)	純資産 総額	リターン (10年、年率)
1	DIAM新興市場日本株ファンド	アセマネOne	126億円	18.4%
2	情報エレクトロニクスファンド	野村	260	15.3
3	東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン	東京海上	741	15.0
4	新成長株ファンド	明治安田AM	438	14.8
5	フィデリティ・テクノロジー厳選株式ファンド	フィデリティ	120	14.4
6	One国内株オープン	アセマネOne	444	13.8
7	小型ブルーチップオープン	野村	171	13.0
8	スパークス・新・国際優良日本株ファンド	スパークス	1808	13.0
9	新光日本小型株ファンド	アセマネOne	177	12.9
10	MHAM新興成長株オープン	アセマネOne	417	12.6
11	日本新興株オープン	日興	133	12.6
12	日本好配当リバランスオープン	SBI岡三	1354	11.7
13	日興中小型グロース・ファンド	日興	109	11.7
14	スパークス・M&S・ジャパン・ファンド	スパークス	185	11.6
15	日興キャッシュリッチ・ファンド	日興	153	11.6
16	日本ニューテクノロジー・オープン	SBI岡三	111	11.4
17	ファンド「メガ・テック」	アセマネOne	112	11.3
18	日興ジャパン高配当株式ファンド	日興	171	11.3
19	ひふみプラス※	レオス	5334	11.0
20	ひふみ投信※	レオス	1607	10.8

3-9 個別株を始めたいなら優待、高配当株

- 株でも基本は長期投資。非課税枠の復活は翌年なので「値動きの激しい銘柄を機動的に売買する」のには向かない。
- 初心者は**優待株投資**が入りやすい。優待品が家計の足しになり楽しいだけでなく、個人投資家に人気のため企業にトラブルがあっても株価が下がりにくい長所も。
- **高配当株**も人気になりそう。事実、14年のNISA開始時には武田薬品、キヤノン、NTTドコモなど当時のメジャーな高配当株が多く買われた。初心者が買えば値上がり期待も。



3-10 低PBR株、コバンザメ戦略も

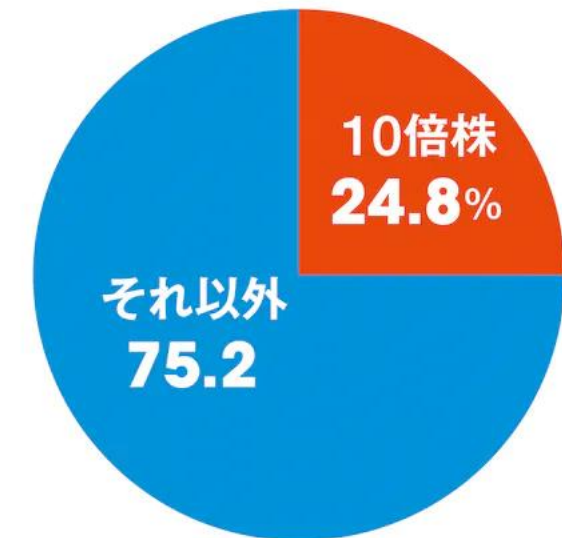
- 東京証券取引所がPBR1倍割れ企業に改善を要請したことで、低PBR株にも脚光。企業も改善に動いているし、数値が低ければ割安だと初心者にも分かりやすい。**アクティブETF**の「PBR1倍割れ解消推進ETF」（シンプレクス）も面白い。
- 億万投資家も使う**コバンザメ戦略**も有効。アクティブ投信の中で非常に成績の良いもの（例：DIAM新興市場日本株ファンドなど）の運用報告書を調べ、組み入れ上位の株を買う。
- 新NISAを意識し、**株式分割**を実施・発表した企業は100社以上。ホンダ、村田製作所やJR東海など個人に人気の企業も多数。特にNTTは25分割した結果、100株を1万7000円程度で買えるようになった。こうした会社を**毎月**買っていく手もある。

3-11 思い切って10倍株を狙う

- 新NISAは今より長期運用できる。利益が大きいほど非課税の恩恵も大きいので、**中小型株**の中から大きく成長しそうな銘柄を選び、長期で持つのも一案。
- 10倍株（テンバガー）になる日本株は意外に多く、リーマン・ショック以降では**全体の4分の1**が1度は10倍を付けている。
- 10倍株ゲットには売らずに持ち続ける**グリップ力**や**胆力**も必要。

日本株市場は10倍株の宝庫

東証上場3864銘柄に占める10倍株の割合



注：3月6日時点。10倍株は東京証券取引所に上場している銘柄のうち、2008年9月に起きたリーマン・ショックの後に付けた最安値から10倍以上に上昇した銘柄

3-12 10倍株の卵のを見つけ方

- 複眼経済塾塾長の渡部清二さんは「**中小型の成長株投資**」を主軸にしている。
- 個人投資家の弐億貯男さんは**セカンダリー銘柄**に注目。上場後、最初の四半期決算を過ぎた銘柄の中から割安に放置されているものを選別。
- 上場時の目論見書などを分析し、年20%程度の売上高成長が見込める企業を見極める。
- 成長イメージが湧きやすく、ストックビジネスで安定収益が期待できる株を狙う。今なら例えば少子高齢化の関連銘柄（介護、葬儀関連）など。

渡部流・10倍株発掘の黄金ルール
過去の10倍株達成銘柄によくみられる傾向

- ①時価総額300億円以下
- ②売上高の伸び率が年20%以上
（4年で2倍）
- ③オーナー企業
- ④PSR（株価売上高倍率）が4倍以下

3-13 注意点とまとめ

- 投資は**行動が大事**。仕組みを聞いて理解したら、勉強に終わらせず実際の行動に移さないと効果が出ない。
- 新NISAの投資をいつ始めるかも重要。年明けからの投資家増加を見越して**年内に先回り**するのも一考。ただし日経平均株価は今年バブル後の高値を更新し、足元では為替が乱高下するなど難しい局面。年内や新年早々の行動は**高値づかみの恐れも**。
- **コア・サテライト戦略**を取り、資産の8割（中核）は安全性の高いインデックス投信の積み立てなどにし、2割（衛星）で株式投資にチャレンジすれば、全体のリスクを抑えられる。
- 新NISAは話題だが、投資の一手法にすぎない。iDeCoやDC、預金や住宅ローンも含めた**資産全体のバランス**で考えよう。

新NISA直前チェック 投資ノウハウを総まとめ

NISA [+ フォローする](#)

2023年12月1日 4:00 (2023年12月9日 8:59更新)

保存

Think! 多様な観点からニュースを考える[速藤直紀さん他2名の投稿](#)

図表を保存

2024年1月の新しい少額投資非課税制度（NISA）スタートまで1カ月を切りました。新NISAは制度が恒久化するだけでなく非課税投資枠が拡大し、個人投資家に使い勝手のいいツールに生まれ変わります。これまで日経電子版マネーのまなびセクションに掲載してきた新NISAの記事をまとめました。これから投資デビューを考える人にも、すでに投資経験のある人にも役立つノウハウが満載です。

ライフイベントに合わせて使いこなす

新NISAは途中で資産を売却しても投資元本分の枠が翌年に復活し、投資枠の再利用ができるのが大きな変更点です。資金プランを考えながらライフイベントに合わせて柔軟に使いこなせるかが長期的な生活設計を左右しそうです。まずは基本を押さえましょう。

2024年からNISAは大きく変わる

		年投資枠	非課税期間	非課税保有限度額	投資枠再利用	投資対象商品
現在	つみたてNISA	40万円	20年	800万円	不可	長期投資に適した投信※1
	一般NISA	120万円	5年	600万円		上場株式・投信・ETFなど
24年から	つみたて投資枠	120万円	無期限	生涯で1800万円	可	長期投資に適した投信※1
	成長投資枠	240万円		（うち成長投資枠は1200万円まで、元本ベース）		上場株式・投信・ETFなど※2

※1 主に低コストのインデックス型投信 ※2 整理銘柄や毎月分配型投信などは除外

【「How to NISA」の記事一覧】（連載中）

- (1)[新NISAは資産形成の中核 投資枠1800万円・生涯非課税](#)
- (2)[新NISAで買う投資信託 指数連動型、「成長枠」でも](#)
- (3)[新NISA、口座開設と金融機関選びのコツ 変更も一案](#)
- (4)[新NISAで米国株投資 ネット証券、手数料ゼロも](#)
- (5)[新NISAとiDeCoの使い分け、年齢・目的・収入で判断](#)
- (6)[新NISA、相続手続き・税を知る 株・投信売却で課税も](#)
- (7)[新NISAで資産長持ち 運用・取り崩し工夫で老後も恩恵](#)
- (8)[保有中の株や投資信託、新NISAで「買い直し」も](#)
- (9)[新NISA、指数連動型投信を見極め コストで成績に差](#)
- (10)[新NISAで投資信託 世界株を積み立て、成長枠で米ETF](#)

新NISAについて、よくある誤解を挙げました。制度についての疑問は早めに解消しましょう。

新NISAの生涯投資枠のイメージ

